

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL.104
2024.12



TOPICS

1

「岡山イノベーションコンテスト2024」で 本学教員2人が部門賞、サンマルク賞を受賞！



革新的なビジネスプランや実践例を競う「岡山イノベーションコンテスト2024」の最終審査が11月23日に岡山芸術創造劇場ハレノワ（岡山市）で開催され、学術研究院ヘルスシステム統合科学学域の宮本愛助教がビジネスプラン部門／一般の部の「部門賞」に、学術研究院医歯薬学域（医）の内山淳平准教授が「サンマルク賞」に輝きました。

第8回となる今年は96組の応募があり、最終審査には厳しい審査を勝ち抜いた13組が出場しました。

宮本助教は、冷凍保存が必要な医薬品をより広範な地域に届けるため「冷蔵～室温保存」を可能にする革新的な技術を紹介。内山准教授は、低受胎菌測定によるウシの受胎性検査について提案しました。今後、宮本助教と内山准教授のますますの活躍が期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13800.html



TOPICS

2

佐藤法仁副理事・副学長・上級URAが日本工学アカデミーの 会員に選出～岡山県で唯一、URA職としてはわが国初～

11月14日、佐藤法仁副理事（研究・産学共創総括担当）・副学長（学事担当）・上級URAが、公益財団法人日本工学アカデミー（事務局：東京都千代田区、代表：安西祐一郎会長、英略：EAJ）の会員に選出されました。

EAJは、1987年に工学・科学技術全般の発展に寄与する目的で設立された産学官の指導的技術者の団体です。産学官の工学系トップ研究者のみならず、関係する政策や経営等のリーダーらも参画するわが国の産業や科学技術・イノベーションの要となるアカデミーであり、国際工学アカデミー連合（CAETS）の一員でもあります。佐藤副理事・副学長・上級URAは、これまで歩んできた産学官における多様なキャリアの実績、業績等が高く評価され、会員に選出されました。佐藤副理事・副学長・上級URAは岡山県で唯一のEAJ会員であり、URA（リサーチ・アドミニストレーター）職として会員に選出されたのは、わが国初となります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13815.html



Pick up!

空手道部が悲願達成！全国国公立大学空手道選手権大会で54年ぶりの優勝



11月24日に大阪大学吹田キャンパスにて開催された「第45回全国国公立大学空手道選手権大会」に本学空手道部が出場し、男子団体組手で優勝に輝きました！本大会での優勝は54年ぶり、4度目のことであり、上位入賞は38年ぶりのことです。昨年のベスト8という結果からさらに躍進しました。

本大会には全国の国公立大学48校が出場し、トーナメント戦による団体戦を行いました。同部は、昨年敗れた大阪大学に決勝で勝利し、見事優勝をつかみ取りました。また、本大会は同部73期の引退試合であったため、部員にとって、より一層思いのこもった大会となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id748.html



TOPICS

3

TEDx Okayama University Student Speaker Competitionを開催

11月24日、創立五十周年記念館金光ホールにて「TEDxOkayama University Student Speaker Competition」を開催しました。本イベントは、2025年4月20日に開催予定のTEDxOkayama Universityに登壇する学生代表2人を選出することを目的としており、グローバル・ディスカバリー・プログラムの学生有志で構成されたTEDxOkayama University実行委員会が運営を行いました。

本学の各学部・研究科とノートルダム清心女子大学から計10人の学生が登壇し、本家TED Talksのスタイルで、ユニークなアイデアを発表。審査の結果、渡邊友萌さん(大学院教育学研究科2年)による「学生への機会提供と直島の活性化を掛け合わせたプロジェクト」について、馬越美佳さん(ノートルダム清心女子大学文学部3年)による「防災のための地域コミュニティづくりにおける公民館の可能性」についてのプレゼンが高く評価され、代表2人として選ばれました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13823.html



TOPICS

4

グッドジョブセンター業務体験会を実施
～いちょう並木の清掃を通じてD&Iを考える～

本学は11月29日、D&Iデイズの一環として、「グッドジョブセンター業務体験会」を実施しました。本イベントは、障がいのあるスタッフとともに、本学の象徴であるいちょう並木の落葉清掃を行うことを通し、D&Iの重要性を考える機会を提供することを目的としています。

当日は、那須保友学長、三村由香里理事(企画・評価・総務担当)、袖山禎之理事(財務・施設担当)・事務総長を含む教職員や学生、計23人が参加。グッドジョブセンターのメンバーと協力しながら、ともに作業に取り組みました。いちょう並木の落葉を丁寧に清掃する作業を通じて、ともに働く喜びや達成感を共有する場となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13807.html

PRESS
RELEASE乳児期のケガは小学校入学前までのケガの再発につながる！
～家庭内での事故予防の再確認を～

学術研究院医歯薬学域(医)救命救急・災害医学講座の平岡知浩大学院生、小原隆史助教、中尾篤典教授のグループは、疫学・衛生学分野の松本尚美助教、頼藤貴志教授らとの共同研究において、「21世紀出生児縦断調査(平成22年出生児)」「厚生労働省)のデータベースを縦断的に解析し、1歳半までのケガの受傷歴と7歳までのケガによる病院受診の有無の関連性について検討しました。

その結果、本邦では約8割の家庭で乳児期に何らかのケガを経験しており、乳児期にケガの経験があるとその後のケガの再発リスクが1.5倍になることが分かりました。さらに、転落、挟まれ、溺水、誤飲、熱傷によるケガは、独立した再発リスクであることが示されました。本研究結果は、10月21日ドイツ Springer Nature社の『Scientific Reports』に掲載されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1306.html



平岡大学院生



小原助教

